

# STAR プロジェクトの概要

---

中妻照雄

2021年1月13日 @Zoom

慶應義塾大学経済学部附属経済研究所 FinTEK センター

# 自己紹介

氏名 中妻照雄

所属 慶應義塾大学経済学部

役職 経済学研究科委員長

経済学部附属経済研究所長

FinTEK センター長

# 報告の内容

本プロジェクトの目的

個人情報保護強化の動き

就活をめぐる諸問題

大学教育での活用

本プロジェクトの進捗状況

# STAR プロジェクトの目的

STAR = Secure Transmission And Recording

## 外部リンク・プレスリリース

### STAR プロジェクトが目指すプラットフォーム

1. 学生の就活と学業に関する情報を適切に管理できる。
2. 学生と企業の間で安全な情報共有を可能にする。
3. 適材適所の採用を助ける。
4. 大学時代の学生の成長を助ける。

2020 年度から 3 年間の実証研究を実施

# 報告の内容

本プロジェクトの目的

個人情報保護強化の動き

就活をめぐる諸問題

大学教育での活用

本プロジェクトの進捗状況

# 個人情報保護の動向

## 1. 法規制の強化

- ・ 改正個人情報保護法
- ・ GDPR (General Data Protection Regulation)
- ・ CCPA (California Consumer Privacy Act)

## 2. 新しい概念の登場

- ・ 情報ポータビリティ
- ・ 忘れられる権利

\* 6 ページと 7 ページは慶應義塾大学法務研究科の山本龍彦教授が STAR プロジェクト研究会で行われたご講演を参考にして作成しています。

# プライバシー権の流れ

## 1. 私生活秘匿権

私生活をみだりに公開されない権利

## 2. 情報自己決定権

個人情報の開示先、開示範囲、開示期限などの決定権

## 3. アーキテクチャ志向の情報自己決定権

個人情報管理システムの適切な設計と堅牢性の確保

# 報告の内容

本プロジェクトの目的

個人情報保護強化の動き

就活をめぐる諸問題

大学教育での活用

本プロジェクトの進捗状況

# 就活における個人情報管理の問題点

1. 個人情報は適切に管理されているのか?  
– 個人情報の漏洩・紛失のリスク
2. 個人情報は採用判断で適切に利用されているのか?  
– 企業による学生の個人情報の目的外使用
3. 必要な情報を集めることができているのか?  
– 学生と企業のマッチング・メカニズムという視点
4. 収集した情報は正しいのか?  
– 嘘の情報を見抜く方法が必要

# 「三方よし」の就活に変えたい

現在の就活は学生、企業、大学の三者にとって望ましいものではない。

1. 学生にとって辛い就活
  - ES の作成、面接などに膨大な時間を取られる。
2. 企業にとって辛い就活
  - 膨大な費用をかけて新卒採用を行っている。
3. 大学にとって辛い就活
  - 就活のために時間が削がれて学業に支障がきたす。

この現状を開拓するための仕組みが必要である。

# STAR に導入予定の就活支援機能

1. 個人情報を安全かつ平易に保管・共有できる。
  - スマホアプリと Web ブラウザを組み合わせた UI
2. 学生が情報自己決定権行使できる。
  - 学生が指定した範囲と期限でのみ公開
3. プラットフォームに個人情報を独占させない。
  - 運営者でも情報を見ることができない仕組み
4. 公平なマッチングに利用できる。
  - 学生の適性に応じたインターンシップの提供
5. 学業と連動した情報が提供される。
  - 大学時代の活動記録の蓄積（後述）

# 報告の内容

本プロジェクトの目的

個人情報保護強化の動き

就活をめぐる諸問題

大学教育での活用

本プロジェクトの進捗状況

# コロナ禍の下での大学教育

1. 2020 年度から感染防止対策の一環としてオンライン授業を強いられるようになった。
2. 教員はオンライン授業のための教材の準備に追われる日々となる。
3. 教員と学生の間のコミュニケーションもオンラインを中心に行うようになった。
4. 2021 年度も続くであろうコロナ禍の下での大学教育のあり方が問われている。

# オンライン教育の「副産物」

1. 授業に関する全ての活動がオンライン上で記録されるようになった。
  - ・出席状況
  - ・宿題、レポート
  - ・授業時間内の質問、議論
  - ・授業時間外の質問、議論
2. 授業に関する活動記録を積極的に活用できないか。

# オンラインを前提としたコミュニティ形成

1. コロナ禍のためゼミナール、サークルなどのコミュニティ活動が著しく制約されている。
2. そのためコミュニケーション不足による学生の孤立が問題となっている。
3. 学生のコミュニティ形成を助けるツールを提供できないか。
4. このツールによって学業以外の活動記録を残せる。

# 活動記録の自己成長への活用

1. 自分が 4 年間の大学生活で何をしてきたかを記録として残せる。
2. コミュニティ参加者の間で相互の評価を行うことができる。
3. 成長過程を可視化するとともに取り組むべき課題にも気づかせることができる。
4. 就活に向けたポートフォリオが自動的に生成される。
5. 授業のブラックボックス化を防ぎ、学外に授業の中身を伝えることができる。

# STAR に導入予定のコミュニティ支援機能

1. コミュニティ活動の支援ツール
2. 授業支援ツール  
(授業もコミュニティの一種とみなせる)
3. LMS (Learning Management System) との連携
4. グループワークなどを対象に就活にも活用できる支援ツール

# 報告の内容

本プロジェクトの目的

個人情報保護強化の動き

就活をめぐる諸問題

大学教育での活用

本プロジェクトの進捗状況

# 本プロジェクトの進捗状況

## 1. 足元で進行している作業

- ・ 2021年1月からシステムの稼働開始
- ・ 参画企業による実証研究も合わせて開始
- ・ 研究会（ゼミナール）選考での使用

## 2. 2021年度以降の予定

- ・ 授業での利用
- ・ コミュニティ（ゼミナール、サークルなど）での利用

ご静聴ありがとうございました。